

教材・支援機器活用実践事例

【多様な動きを引き出すサーキット運動】

	実施年度	平成28年度			
授業について	教科名等	体育科			
	単元・題材名	「多様な動きをつくる運動」～サーキット運動をしよう～			
	授業における教師のねらい	○反復して運動することで基本的で多様な動きを引き出す。 ○全身を協応させる力，平衡性，筋力を総合的に高める。			
	授業における子どもの目標	○サーキット運動に進んで取り組むことができる。 ○サーキット運動の取り組み方が分かり，体を動かすことができる。 ○それぞれの種目に応じた動きで体を動かすことができる。 ○簡単なきまりを守って安全に運動することができる。			
子どもについて	学校・学級・学年	県立養護学校 小学部 3学年			
	対象の障がい	知的障がい			
	授業形態	集団学習			
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	「歩く」「走る」「跳ぶ」等、基本的な動きに慣れている児童は多いものの、用具を操作する運動，全身を協応させる運動等にぎこちなさがある。いろいろな運動種目に繰り返し取り組み、様々な動きを経験することで、基本的な動きを身に付けるとともに多様な動きを引き出していけるようにしたい。			
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	①【がんばることカード】 	②【跳び箱越え】 	③【綱くぐり】 	
		④【平均台渡り】 	⑤【肋木登り】 	⑥【ラダー両足跳び】 	⑦【ロープぶら下がり】 
	活用のねらい	①活動の前にカードで頑張ることや約束を確認するとともに、腕の伸ばし方や肋木の握り方等の具体的な動きのポイントを手本を交えながら視覚的に分かるようにする。 ②「這い登る」「またぐ」「跳ぶ」等の動きを行う。跳び箱は高・低の2コースから自分で選んで取り組めるようにする。実態に応じて踏台を用意し自分の力で達成できるようにする。 ③手のひらを床について「這う」動きを行う。 ④平均台を高・低の2コースから選んでバランスをとりながら「渡る」動きを行う。平均台の中心にカラーテープを貼り、足を置く位置を分かりやすくする。実態に応じて横歩き・後ろ歩きで渡ったり、頭上に紅白玉を乗せて渡ったりと難易度を調整する。 ⑤肋木の上部に設置してあるタンブリンを目指して「登る」「下りる」の運動を行う。 ⑥ラダーの間に足型シートを敷いて両足跳びを意識できるようにする。 ⑦ロープを握り、数秒間「ぶら下がる」動きを行う。軽く揺らすことで楽しく「ぶら下がる」ことができ、静の動作に繋げる。			
授業における支援 ・教材の配慮事項		○児童が「分かる」内容と「できる」環境を設定することで自ら進んで運動し、体の動かし方を身につけられるようにする。 ○跳び箱の高さを調整したり、踏み台を置いたりすることで難易度を変え、自分の力で種目をクリアしたという達成感を味わうことができるようにする。 ○具体的に良かった点を称賛して、自信をもって楽しく運動に取り組むことができるようにし、基本的な動きの定着に繋がるようにする。			
子どもの変容や評価		○活動前に「がんばることカード」と教師の手本を示すことで動きのポイントを意識しながら運動している姿が見られた。 ○何度も繰り返しサーキットのコースでの運動を経験することで両足跳びができるようになったり、平均台をすり足から左右交互に足を出して歩き渡ることができるようになったりする等、基本的な動きの幅を少しずつ広げていくことができた。 ○疲れから集中を欠き、動きの質が落ちるので運動終盤は安全面に配慮した。			

